

まちづくり町民講座（第146回）議事概要

- 1 日 時 平成27年9月24日（木）18：30～20：05
- 2 場 所 ニセコ町民センター 2階 研修室1
- 3 テー マ データで読み解くニセコの姿
～ニセコ町の人口はなぜ増えているのか～
- 4 講 演 者 金井自治創生室長
- 5 意見交換及び会場アンケート
下 記

■意見交換■

（講演者提起）

P.46の「正規雇用職員割合」について、一見するとニセコ町は、全国全道の水準を下回っているが、家族従業者を足し合わせると全国全道の水準と何ら変わらない。個人事業主・家族経営が多いニセコ町の特徴を踏まえると、家族従業者を正規雇用とみなして考えるのは自然であり、正規雇用が少なく、季節雇用（非正規雇用）が非常に多いとは一概に言えないのではないか。

ニセコ町においては、正規雇用の割合の引き上げを目指すべき一方、個人事業者が多いのも「ニセコらしい仕事」と言えるのではないか。

（意見1）

「ニセコだから」「スキーをしたいから」等の理由で来た人は、とりあえずどこかに勤めたいという人が多い。仕事と趣味を一緒にできるような環境を求めているのでは。

（意見2）

ニセコ町の子育て環境がいいという人は多い。学童保育、幼児センターも増築が決まっているし、その後も順次小学校、中学校も補修する予定。きちんと取り組みがされていると認められているのでは。また、学童保育の他にあそぶつく等もあり、移住者同士の交流の場となっているのだと思う。

（意見3）

大前提として生活に不安があるというのは誰でも困るはず。男性や家族のいる人にとっては、通年雇用が大事と考えるだろうし、一方で四季を生かしたニセコスタイルとして、プライベートや遊びを充実させつつ働きたいと言う人が多いのも事実で、どちらを考えるか偏るのは当然のこと。年間のスキームを的確に把握し、ビジネススキームに生

かすことができればいいのか。バランスが大事。また、起業支援等をうまく提供していなければ、今後の転入が続かないのでは。

(意見4)

最近出生率が高い理由としては、町の助成対象となる妊産婦検診とエコー検診を計20回分に増やしたことや、乳幼児健診にも力を入れていることが要因ではないか。最新の合計特殊出生率は現在1.75くらいだと思う。

(意見5)

失業率の変動等についてP.54の「本町の完全失業者数」について、失業率が高まる要因として考えられるのは、大きなスキー場の閉鎖や、宿泊施設の経営者の変更に伴い従業員が大量に解雇されたこと等が影響しているのではないか。

(意見6)

P.43「女性の産業別従事者数」について、医療・福祉職員の数が多い要因は、ニセコ町内の老人施設2箇所勤務している人のほか、近隣の町村にある病院や施設に通勤している人が多いからではないか。

(意見7)

国外転入が多いというだけでなく、その内訳が重要だと思う。このデータは国勢調査を基にしている部分が多いと思うが、外国人は対象になっているのか。また、その対応はうまくいっているのか。

(事務局コメント)

海外の人も調査の対象のはずだが、その回答率は不明。前回実施時は、調査票を配布する調査員と回答者である外国人とのコミュニケーションがうまくとれず、なかなか難しかったという反省点があり、今回は英語版パンフレットの活用等行っている。

(意見8)

P.31「年齢区分別、男女別純移動者数」について、子育て世代の転入が多く、20代は転出が多い。20代の転出の理由は進学なのか。また、IターンなのかUターンなのかその内訳がわかる資料はないのか。

(講演者コメント)

今のところそういう資料はない。

(意見 9)

子育て世代の人が子供を連れて転入していると思われるが、転入の理由、居住先（寮なのか、公営住宅なのか、建てるのか等）や就職先等、詳しいデータはないか。

(講演者コメント)

今ははっきりと示せるデータはないが、現在、建設課で転入者向けにアンケートを実施しているので、結果をまとめることができればある程度わかってくるかもしれない。

(意見 10)

私の近所にも小さい子供がいる家族が引越ししてきたが、転入の理由等、町で直接ヒアリングをしてみてもどうか。「なぜニセコ町にきたのか」、「ニセコ町での子育てをどう感じているか」、「ニセコ町に定住する気になるためにはどうすればよいか」等、10歳くらいまでの子供がいる家庭向けに実施してほしい。

(講演者コメント)

8月に行った町民アンケートがまさにその内容で、おおよその内容を把握できるはず。直接ヒアリングをするかどうかという点については、どのような対象者を選べば良いのか等慎重に考えるべき。アンケート内容をもとに議論し、関連づけられればと思う。

(意見 11)

P. 33～34「転入元・転入先データ」の、外国からの人口移動の収支が合わない点について、外国からの転入は、外国から直接ニセコ町へ転入しているケースと思うが、転出についてはニセコ町から直接外国に戻るとは限らず、その差として表れているのではないか。例えばニセコ町から倶知安町に転出し、その後外国へ戻るケース等。よって、ニセコ町へ留まってもらうにはどうしたらいいかを考えるべきなのかと思う。

(講演者コメント)

移住フェア・相談会等を行う「北海道暮らしフェア」に参加した方の情報では、多くの相談者が訪れると聞いており、ニセコ町は非常に注目されていると考えていた。しかし、最近、東京で全国を対象とした移住フェアに参加したが、相談者は十数名程度で予想よりも格段に少なかった。このことから、全国的にはまだまだニセコ町は知られていないのではないか。転出転入先のデータを見ると、首都圏とニセコ町の転出転入の増減はニセコ町がマイナスで、資料がまさに「首都圏での知名度不足」を示しているのではないか。役場は今後、移住についてどうあるべきか等考えていくことが必要。

(意見 12)

移住定住してもらいたいが、住宅がないというのが問題。公営住宅も長寿命化計画等進めているが、もっと民間住宅を建ててもらおうと取り組んでいるところ。来年は、民間で50戸程度建設を検討している事業者があるほか、アパート予定地の看板等を見かけ

るので、全体で70~80戸くらい建設されるのではないかと期待している。また、現在土地調査も進めている。統計データ上、倶知安町から通勤している人も500人程いるはずで、住宅を増やせばそういう人に対応できるのではないか。

(講演者コメント)

住宅不足が問題なのは事実だが、住宅ができてそこに入るのは近隣町村の人。となれば、都市部から地方への移住者を増やすという自治創生の目的に対応できていないことになる。本当に住宅だけが問題なのか、合わせて考えていく必要があるのではないか。

(意見13)

データを見てもわかるとおり、ニセコ町は起業者が多い。都市部からの移住を目指すためにビジネスマッチング等起業者をもっとサポートできるシステムをつくっていただければいいと思う。

(意見14)

P.31「年齢区分別、男女別純移動者数」の年齢別転出に関連して、高齢者の転出が少ないとの説明があったが、私はほとんどないのではないかと考えている。農家を続けてきた人は自分たちの子供がそのまま農家を継いで、一緒に住むケースが多いと思うし、商店等を経営している人は前が店舗で後ろが住宅という住居形態(店舗併用住宅)が多いため、動けるうちは働きながらそのまま住み続けるケースが定番だと思う。本当に施設に入らないといけない状態にならないと出て行かないのではないかとと思う。

また、店舗併用住宅の人に、店舗部分を貸してほしいという呼びかけはしているが、「愛着があるから店は使ってほしくない」、「水周りが住居側にしかないし無理」等賃貸に踏み切れないのが現状。しかし、これらを使わせてもらえれば、町にも活気が出ると思うし、店を出したい若者にも後押しになるので今後の課題だと思う。

(意見15)

資料のとおり、子育て世代の転入が多いというのは事実で、すでに子供を生んでいる人は教育や子育て環境を重要視していると思うが、私のようにまだ子供を生まずに転入してきた人には産婦人科がない等気になる部分はあると思う。若い世代の女性がどう考えているのか、何を求めているのか知りたいと思う。そこに対応していけば人口の対策にもつながるのではと思う。記憶では、今後女子会として女性だけの意見交換の場を作るという話があったかと思うので、今来ている方の周りには女性の皆さんにもぜひ声かけをしてもらって、たくさんの意見を聞ければと思う。

(講演者コメント)

女子会を企画しようとしている。今日も女性の方も多くいらっしゃるので、ぜひ参加してください。

(意見16)

(配布されたチラシを見ながら) 10月13日の町民講座(「里山資本主義による環境創造都市ニセコの実現」)に関連して、自分も「里山資本主義」の書籍を買って読んだ。全国的に出生率が高いところの特徴等分析されており、条件が4項目載っている。これらをニセコに当てはめてどうなのか考えていくべきだと思う。

■会場アンケート■

(会場アンケート1)

人口を減らさないために、出生率を引き上げる施策、子供のいる家族の移住の推進を図る施策が必要。また、お年寄りが長生きすることも必要で予防医療の充実や子供との触れ合いや学びの場が必要。

(会場アンケート2)

若い世帯が倶知安町から転入している一因としては、住宅家賃の安さが影響している。国内からニセコ町へ移住された方がどうしてニセコ町を選んだのか、非常に興味深い。

(会場アンケート3)

- ・二地域居住、別荘や週末だけニセコ町で過ごすなどの住民票のない人の人口数の把握。
- ・住宅のミスマッチの現状、課題や対策について。
- ・町民アンケート結果を踏まえての今回の町民講座でもよかったのではないか。
- ・ニセコの子供たちへ、(学校では教えてくれない) 将来の仕事、住宅や配偶者を得る能力について、意味を伝えていくと良い。

(会場アンケート4)

冬にスキーなどでニセコへ来ている外国人を含む若者の移住を図るべき。

非正規雇用であっても2人でサラリーマン1人分程度稼ぐライフスタイルもある。ヨーロッパではこういうライフスタイルもある。

非正規雇用から新規就農そして起業への道。

外国人が多いことを生かし、グローバル人材の育成に取り組むべき。子供たちには語学力を生かしてホテル等で雇用されるよう、使えるビジネス英語を教えるべき。

(会場アンケート5)

初めて町民講座に参加しました。データをもとにする、ということは見えないものが見えることだと思いました。

(会場アンケート6)

幼保一元化施設である幼児センターの保育内容が、今の子育て世代の保護者には評価が高い。子育て世代の転入+保育教育の充実が人口増加や定住促進につながる要因になると思う。

外国人のことを考えると、インターナショナルスクールの存在も大きい。

(会場アンケート7)

ニセコブランドとは何か？ニセコブランドの活用が十分にできているか？ニセコブランドをどうするか？住民に問うてほしい。

以上